

第 8 回薬薬連携の会議事録

日 時：令和 3 年 6 月 28 日（月）19：00-19：30

方 法：WEB 方式（Cisco Webex）

演題 退院時の薬剤情報連携について

（白内障・PCI 術後の薬物療法を含めて）

演者 多摩南部地域病院 薬剤科 主任 鎌田健司

質疑応答

（保険薬局→病院）

・PCI 後の DAPT の投薬期間について文書で事前に情報共有できるか。

→事前に分かる場合は記載するが、そのような症例は少ないと思われる。

・トレーシングレポートについて、今後「東京都版」が作成される可能性あり。現在、当院独自の書式があるが、東京都の雛形が出された場合、当院にはどちらを提出すべきか。

→当院への提出はどちらでもよい。

・トレーシングレポートの内容を医師が承知しているが、処方変更は行わない、または今後変更を検討するなどの場合の記載事項の記入欄もあるとよい。

→今後、指摘された記入欄の追加を議論・検討していく。→7 月上旬に病院から保険薬局への返信欄を追加した新書式に改訂した。

・情報共有用紙はトレーシングレポートと並行して使用してよいか。

→使用目的が異なるため、並行して使用していただきたい

（病院→保険薬局）

・現状、当院の処方箋に検査値は記載なし。多摩地域ではどのような運用か。

→多摩地区の病院は検査値が記載されている処方箋は少ない印象。

・検査値は処方箋に記載されている方が良いか。

→検査値の推移があるならばより有用に活用できる可能性がある。他の病院にもかかっている患者の場合は、そのほかの病院の処方監査にも活用できると考えられる。CKD シールというものを使用している病院もあり、eGFR の値がわかるとより活用しやすい

・受領したトレーシングレポートの内容を保険薬局側へ連絡する場合、電話やファックスなどどのようなやり方が良いか。

→以前のトレーシングレポートには連絡方法の記入欄があったので、それがあるとよい。